

# 医療法人財団 明理会 介護老人保健施設

## 春日部ロイヤルケアセンター運営規程

### (運営規程設置の主旨)

第1条 医療法人財団明理会が開設する介護老人保健施設春日部ロイヤルケアセンター（以下「当施設」という。）が実施する施設サービスの適正な運営を確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定める。

### (施設の目的)

第2条 当施設は、要介護状態と認定された利用者（以下「利用者」という。）に対し、介護保険法令の趣旨に従って、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立した日常生活を営むことができるようとするとともに、利用者の居宅における生活への復帰を目指した介護保健施設サービスを提供することを目的とする。

### (運営の方針)

第3条 当施設では、利用者の有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、施設サービス計画に基づいて、医学的管理の下におけるリハビリテーション、看護、介護その他日常的に必要とされる医療並びに日常生活上の世話をを行い、居宅における生活への復帰を目指す。

2 当施設では、利用者の意思及び人格を尊重し、自傷他害の恐れがある等緊急やむを得ない場合以外、原則として利用者に対し身体拘束を行なわない。

3 当施設は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じるものとする。

4 当施設では、介護老人保健施設が地域の中核施設となるべく、居宅介護支援事業者、その他保健医療福祉サービス提供者及び関係市区町村と綿密な連携をはかり、利用者が地域において統合的サービス提供を受けることができるよう努める。

5 サービス提供にあたっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対して療養上必要な事項について、理解しやすいように指導又は説明を行うとともに利用者の同意を得て実施するよう努める。

6 利用者の個人情報の保護は、個人情報保護法に基づく厚生労働省のガイドラインに則り、当施設が得た利用者の個人情報については、当施設での介護サービスの提供にかかる以外の利用は原則的に行わないものとし、外部への情報提供については、必要に応じて利用者またはその代理人の了解を得ることとする。

7 当施設は、介護保健施設サービスを提供するに当たっては、介護保険法第118条の2第1項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努めるものとする。

### (施設の名称及び所在地等)

第4条 当施設の名称所在地等は次のとおりとする。

- (1) 施設名 介護老人保健施設 春日部ロイヤルケアセンター
- (2) 開設年月日 平成15年10月1日
- (3) 所在地 埼玉県春日部市藤塚2622番2
- (4) 電話番号 048-733-5771 FAX番号048-733-5778
- (5) 定員 150人（内 認知症ケア専門棟 50人）
- (6) 介護保険指定番号 介護老人保健施設（1150680025号）

#### (従業者の職種、員数)

- 第5条 当施設の従事者の職種、員数は、次のとおりであり、必置職については法令の定めるところによる。
- (1) 管理者 1人  
管理者は、施設の従業者の管理及び業務の管理を一元的に行う。
  - (2) 医師 1.5人以上  
医師は、従業者の管理、指導を行うとともに、利用者の病状に応じて、妥当適切に診療を行うなど、医学的管理を行う。
  - (3) 薬剤師 0.5人以上  
薬剤師は、利用者の服用する薬剤の管理及び指導を行う。
  - (4) 看護職員 15人以上  
看護職員は、利用者の日々の健康状態のチェック、保健衛生上の指導、病状や心身の状況に応じた看護を行う。
  - (5) 介護職員 36人以上  
介護職員は、心身の状況等に応じ、入浴、給食等の介助及び援助を行う。
  - (6) 支援相談員 2人以上  
支援相談員は、入所者及び家族等からの相談に応じ、必要な助言その他の援助を行うとともに、職員に対する技術指導、関係機関との連絡調整を行う
  - (7) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 1.5人以上  
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は、身体機能の向上又は減衰を防止するための訓練・指導を行う。
  - (8) 管理栄養士 1人以上  
管理栄養士は、給食の献立の作成、利用者の栄養指導、栄養ケアマネジメント等の栄養状態の管理、調理員の指導等を行う。管理栄養士は、給食の献立の作成、利用者の栄養指導、栄養ケアマネジメント等の栄養状態の管理等を行う。
  - (9) 介護支援専門員 1.5人以上  
介護支援専門員は、施設サービス計画の作成を行う。
  - (10) 歯科衛生士 1人以上  
歯科衛生士は、利用者の口腔ケア等の業務にあたり、口腔機能維持管理を行う。
  - (11) 調理員 3人以上  
調理員は、献立に基づき、給食を調理し、配膳を行う。
  - (12) 事務職員 3人以上  
事務職員は、必要な事務を行う。

#### (介護老人保健施設のサービス内容)

- 第6条 当施設のサービスは、居宅における生活への復帰を目指し、利用者に関わるあらゆる職種の職員の協議によって作成される施設サービス計画に基づいて、利用者の病状及び心身の状況に照らして行う適切な医療及び医学的管理の下における看護・介護並びに日常生活上の世話、また栄養管理、栄養ケア・マネジメント等の栄養状態や口腔衛生の管理とする。

#### (利用者負担の額)

- 第7条 利用者負担の額を以下のとおりとする。

- (1) 保険給付の自己負担額を、重要事項説明書に掲げる厚生労働大臣が定める基準によるものとし、当該施設サービスが法定代理受領サービスである時は、介護報酬告示上の額の介護保険負担割合証記載の割合の額に応じる。
- (2) その他の費用として、重要事項説明書に掲げる費用の支払いができるものとする。
- (3) 前項の支払いを受ける場合には、利用者又はその家族に対して事前に文書で説明をした上で、支払いに同意する旨の文書に署名を受けることとする。
- (4) 「食費」及び「居住費」において、国が定める負担限度額段階（第1段階から3段階まで）の利用者の自己負担額については国の定める通りとする。

#### (身体の拘束等)

第8条 当施設は、原則として利用者に対し身体拘束を廃止する。但し、当該利用者または他の利用者等の生命または身体を保護するため等緊急やむを得なく身体拘束を行う場合、当施設の医師がその様態及び時間、その際の利用者の心身の状況、緊急やむを得なかつた理由を診療録に記載する。

2 当施設は、身体的拘束等の適正化を図るため、以下に掲げる事項を実施する。

- (1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を1月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図る。
- (2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備する。
- (3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を年2回以上実施する。

#### (虐待の防止等)

第9条 当施設は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため、以下に掲げる事項を実施する。

- (1) 虐待防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を1月に1回以上開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底を図る。
- (2) 虐待防止のための指針を整備する。
- (3) 虐待を防止するための定期的な研修を年2回以上実施する。
- (4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を設置する。

#### (褥瘡対策等)

第10条 当施設は、利用者に対し良質なサービスを提供する取り組みのひとつとして、褥瘡が発生しないような適切な介護に努めるとともに、褥瘡対策指針を定め、その発生を防止するための体制を整備する。

#### (施設の利用に当たっての留意事項)

第11条 当施設の利用に当たっての留意事項を以下のとおりとする。

施設利用中の食事は、特段の事情がない限り施設の提供する食事を摂取いただくこととする。食費は第7条に利用料として規定されるものであるが、同時に、施設は第6条の規定に基づき利用者的心身の状態に影響を与える栄養状態の管理をサービス内容としているため、食事内容を管理・決定できる権限を委任いただくこととする。

- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| ・ 面会                              | 午前10時～午後8時                               |
| ・ 消灯時間                            | 午後9時                                     |
| ・ 外出・外泊                           | 事前に申込書を記入（外泊は最長で1日につき中6日）                |
| ・ 飲酒・喫煙                           | 原則不可                                     |
| ・ 火気の取扱い                          | 不可                                       |
| ・ 設備・備品の利用                        | 備え付けのものを使用（無断使用は禁止）                      |
| ・ 所持品・備品等の持ち込み                    | 持ち物にはすべてご記名ください                          |
| ・ 金銭・貴重品の管理                       | 個人管理（破損・紛失・盗難には責任を負いかねますので持ち込みはご遠慮ください。） |
| ・ 外泊時等の施設外での受診                    | 当施設医師の指示が必要です                            |
| ・ 宗教活動                            | 禁止                                       |
| ・ ペットの持ち込み                        | 禁止                                       |
| ・ 利用者の「営利行為、宗教の勧誘、特定の政治活動」は、禁止する。 |  |
| ・ 他利用者への迷惑行為は禁止する。                |  |

#### (非常災害対策)

第12条 消防法施行規則第3条に規定する消防計画及び風水害、地震等の災害に対処する計画に基づき、また、消防法第8条に規定する防火管理者を設置して非常災害対策を行う。

- (1) 防火管理者には、事業所管理者を充てる。(事業所管理者とは別に定めることも可)
- (2) 火元責任者には、事業所職員を充てる。(名前を列記しても可)
- (3) 非常災害用の設備点検は、契約保守業者に依頼する。点検の際は、防火管理者が立ち会う。
- (4) 非常災害設備は、常に有効に保持するよう努める。
- (5) 火災の発生や地震が発生した場合は、被害を最小限にとどめるため、自衛消防隊を編成し、任務の遂行に当たる。
- (6) 防火管理者は、当施設職員に対して防火教育、消防訓練を実施する。
  - ① 防火教育及び基本訓練（消火・通報・避難）……年2回以上  
(うち1回は夜間を想定した訓練を行う)
  - ② 利用者を含めた総合避難訓練……………年1回以上
  - ③ 非常災害用設備の使用方法の徹底……………隨時
- その他必要な災害防止対策についても必要に応じて対処する体制をとる。
- (7) 当施設は、(6)に規定する訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努める。

#### (業務継続計画の策定等)

- 第13条 当施設は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する介護保健施設サービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。
- 2 当施設は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的に実施する。
  - 3 当施設は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行う。

#### (事故発生の防止及び発生時の対応)

- 第14条 当施設は、安全かつ適切に、質の高い介護・医療サービスを提供するために、事故発生の防止のための指針（別添）を定め、介護・医療事故を防止するための体制を整備する。また、サービス提供等に事故が発生した場合、当施設は、利用者に対し必要な措置を行う。
- 2 施設医師の医学的判断により、専門的な医学的対応が必要と判断した場合、協力医療機関、協力歯科医療機関又は他の専門的機関での診療を依頼する。
  - 3 事故発生の防止のための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）及び従業者に対する定期的な研修を実施する。
  - 4 前3項に掲げる措置を適切に実施するための担当者を設置する。

#### (職員の服務規程)

- 第15条 当施設職員は、介護保険関係法令及び諸規則、個人情報保護法を遵守し、業務上の指示命令に従い、自己の業務に専念する。服務に当たっては、協力して施設の秩序を維持し、常に次の事項に留意すること。
- (1) 利用者に対しては、人格を尊重し親切丁寧を旨とし、責任をもって接遇すること。
  - (2) 常に健康に留意し、明朗な態度を失ってはならない。
  - (3) お互いに協力し合い、能率の向上に努力するよう心掛けること。

#### (職員の質の確保)

- 第16条 当施設職員の資質向上のために、その研修の機会を確保する。
- 2 当施設は、全ての従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じるものとする。

#### (職員の勤務条件)

- 第17条 当施設職員の就業に関する事項は、別に定める医療法人財団明理会の就業規則による。

#### (職員の健康管理)

第18条 当施設職員は、当施設が行う年1回の健康診断を受診すること。ただし、夜勤勤務に従事する者は、年間2回の健康診断を受診しなければならない。

#### (衛生管理)

第19条 利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に務め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療用具の管理を適正に行う。

2 感染症が発生し又はまん延しないように、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための指針を定め、必要な措置を講ずるための体制を整備する。

(1) 当施設における感染症又は食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）1月に1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

(2) 当施設における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。

(3) 当施設において、従業者に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修並びに感染症の予防及びまん延の防止のための訓練を定期的に実施する。

(4) 「厚生労働大臣が定める感染症又は食中毒の発生が疑われる際の対処等に関する手順」に沿った対応を行う。

3 栄養士、管理栄養士、調理師等厨房勤務者は、毎月1回、検便を行わなければならない。

4 定期的に、鼠族、昆虫の駆除を行う。

#### (守秘義務及び個人情報の保護)

第20条 当施設職員に対して、当施設職員である期間および当施設職員でなくなった後においても、正当な理由が無く、その業務上知り得た利用者又はその家族の個人情報を漏らすことがないよう指導教育を適時行うほか、当施設職員等が本規定に反した場合は、違約金を求めるものとする。

#### (その他運営に関する重要事項)

第21条 地震等非常災害その他やむを得ない事情の有る場合を除き、入所定員及び居室の定員を超えて入所させない。

2 運営規程の概要、当施設職員の勤務体制、協力病院、利用者負担の額及び苦情処理の対応、プライバシーポリシーについては、ファイリング及びホームページにて閲覧できるようする。

3 当施設は、適切な介護保健施設サービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。

4 介護保健施設サービスに関する政省令及び通知並びに本運営規程に定めのない、運営に関する重要事項については、医療法人 財団 明理会 理事長と事業所の管理者の協議に基づいて定めるものとする。

#### 付 則

この運営規程は、平成15年10月 1日から施行する。

平成16年10月 1日一部改訂する。

平成17年 1月 1日一部改訂する。

平成17年10月 1日一部改訂する。

平成18年 4月 1日一部改訂する。

平成21年 4月 1日一部改訂する。

平成22年 9月 1日一部改訂する。  
平成24年 6月 1日一部改訂する。  
平成27年 4月 1日一部改訂する。  
平成27年 8月 1日一部改訂する。  
令和1年10月 1日一部改訂する。  
令和5年 5月 1日一部改訂する。  
令和6年 4月 1日一部改訂する。